

| | | | |
|---------------|--|--------------------------------------|---|
| 授業科目名 | 保育音楽 | 担当教員名 | 池内 恵美 |
| 必修/選択 | 必修 | 開講学年・学期 | 2年 後期 (年間開講数 2講座) |
| 科目区分 | 教職・保育に関する科目 | 単位数 | 1単位 (30時間) |
| 施行規則に定める科目区分等 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目-領域に関する専門的事項(附則第7項) 表現 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表2) | 授業方法/担当形態 | 演習 / 単独 |
| | | 特記事項 | ※実務経験のある教員等による授業 ピアノ、声楽指導者として音楽教室を主宰している経験を活かし、音楽の基礎的知識、技能の習得のための指導を行っている。 |
| 授業の概要及び全体目標 | 子どもの音楽表現活動を支えるために学んできた音楽の基礎的な知識や技能を保育の現場での音楽遊びへ発展させていく方法を習得します。様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにし、保育の現場で求められる表現の知識と技能を応用させて、実践できることを目指します。また音楽活動においてその準備と指導ができるようになることを目指します。 | | |
| 到達目標 | <p>(1)子どもの音楽表現活動を支えるために学んできた、音楽の基礎的な知識と技能を保育の現場での音楽遊びへ発展させていく方法を理解する。</p> <p>①保育の現場で歌われる技能として弾き歌いができる。 ②ソルフェージュの演習を通してリズム感と音程感、読譜力を強化することができる。 ③習得した音楽の知識と技能を実践につなげることができる。 ④グループ活動を通して協働する力を育み、自己の役割を見出し、行動することができる。 ⑤子どもの音楽活動を支えるために保育者としての準備と指導をすることができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>①基礎的な知識と技能を保育の現場での音楽遊びへ発展させることができる。 ②様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 ③表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 ④協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 ⑤様々な表現の基礎的な知識と技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p> | | |
| テキスト | 「3つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏集」(ドレミ楽譜出版社)、自作プリント | | |
| 参考書・参考資料等 | 「ポケットいっぱい」鈴木恵津子・富田英也監修編著(教育芸術社) | | |
| 成績評価の方法 | ○授業内課題1(実技試験):20% ○授業内課題2(発表):20% ○授業内課題3(レポート提出、課題シート):50% ○受講意欲・態度:10% | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | 遊びを伴った子どもの歌と音楽 ・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて理解する。 ・保育者に求められる幼児の発達にふさわしい援助の重要性を学び、音楽表現の知識と技能を習得することを理解する。 | (1)-①,(1)-②,(2)-②,(2)-③ | |
| 第2回 | 子どもの音楽表現活動を支える豊かな表現力の育成 ・季節や行事の歌唱を通して、イメージを広げる。 ・情景が伝わるような、表情豊かな音楽表現を体験する。 | (1)-①,(1)-②,(2)-②,(2)-③ | |
| 第3回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅠ:コードネームによる伴奏法 ・楽典の理解を深める。 ・コードネームによる伴奏法で弾き歌いをする。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第4回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅡ:伴奏型 ・様々な伴奏型を学び、曲想が変化することを体験する。 ・伴奏型のアレンジを理解する。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第5回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅢ:音楽の創作(基礎) ・子どものための歌を創作する。 ・基礎的な音楽の創作方法を理解し、習得する。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第6回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅣ:音楽の創作(応用) ・子どものための歌を創作するための基礎的な音楽の創作方法を理解し習得した上で、応用させる。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第7回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅤ:記譜法 ・記譜法を理解する。 ・創作した子どものための歌を楽譜にする。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第8回 | 基礎的な音楽知識と技能を実践力につなげるⅥ:創作曲の弾き歌い ・創作した子どものための歌を実際に演奏する。 ・弾き歌いを通して音の響きを確認し、理解を深める。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-② | |
| 第9回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅰ:創造的音楽表現あそび ・保育の現場での音楽遊びを想定し、音楽の表現活動として理解する。 | (2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-⑤ | |
| 第10回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅱ:おはなしと音楽 ・おはなし(物語)を題材として捉え、理解する。 ・場面ごとの表現を音楽的にイメージし、曲の構成とともに考える。 | (1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤, | |
| 第11回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅲ:言葉と音楽 ・言葉とリズムの関係性を学び、子どものための歌を創作する。 ・音楽的に表現するための基礎的な知識と技能を身に付ける。 | (2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤, | |
| 第12回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅳ:音楽の創作 ・子どもの音楽表現活動に展開させることができる。 | (1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤, | |
| 第13回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅴ:発表会 ・創造的音楽表現あそびの発表 ※情報機器・視覚教材の使用 | (1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤, | |
| 第14回 | 協働による音楽表現創作活動Ⅵ:ふりかえり ・創造的音楽表現あそびの発表後、意見交換や感想をもとに振り返り、理解を深める。 ※情報機器・視覚教材の使用 | (2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤, | |
| 第15回 | 子どもの音楽活動を支えるための音楽表現の指導についての総括 | | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(1)-④,(1)-⑤,(2)-⑤ |
| 定期試験 | 定期試験は実施しない | | |